

平成 18 年 9 月 22 日

各 位

不動産投信発行者名

東京都渋谷区渋谷二丁目 15 番 1 号
渋谷 ク ロ ス タ ワ ー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代 表 者 名

執行役員 鈴木 雅之

(コード番号：8981)

問 合 せ 先

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

取締役・管理本部長

鈴木 博之

TEL. 03-6688-1480

2006 年 8 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2006 年 8 月度の月次総売上げ並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR 等を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人から開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

項目/年月	客室稼働率(%)	ADR(円)	RevPAR(円)	売上高(百万円)
神戸メリケンパークオリエンタルホテル	98.2%	16,713	16,413	517
新浦安オリエンタルホテル	91.4%	24,745	22,607	625
なんばオリエンタルホテル	93.9%	10,815	10,155	178
ホテル日航アリビラ	91.0%	54,611	49,685	966

2006 年 8 月売上に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門については、前年同月比で ADR は下がったものの、客室稼働率は大幅に上昇しました。結果として、RevPAR は好調な月でした。稼働率上昇の主要因は、昨年愛知万博の影響でマイナスの受けていたレジャー需要が戻ったこと、また自社 WEB をはじめとしたインターネット経由の予約による集客が順調だったことによるものです。一方、ADR が弱含んだ主因は、未だ続いている競合ホテル間の客室販売価格競争の影響によるものです。但し、本年 6 月に改装された客室に限ってみれば、約 98% とホテル全体の稼働率と遜色のない稼働を維持しつつ、未改装部屋と比較して高めの価格で販売が出来ており、好調に推移しました。

本年年初から続いている婚礼部門の不調は解消できず、宿泊部門の売上増加分を相殺する結果となりました。一方で、営業力並びに商品・サービスの質の向上等に取り組んできた効果も見え始め、現時点での婚礼部門の予約状況を見る限り、2007 年 1 月以降回復傾向にあります。

新浦安オリエンタルホテルについて

東京ディズニーリゾートの集客に伸びのない中、前年同月比でADRを同レベルに維持しながらも稼働率を約5%上げること成功しております。宿泊部門のみならず、料飲（婚礼、一般宴会、レストランを含む）とも好調な月でした。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門については、稼働率こそ前年同月並みでしたが、客室改装等の効果もありADRのアップに成功し、RevPARを伸ばしました。しかしながら、本年1月に入れ替わった地下1階のテナント賃料が周辺の相場程度に下がっており、月額約15百万円の減収が宿泊部門の売上増加を相殺してしまうかたちになっております。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門については、稼働率は台風8号の影響によるキャンセルもあり、前年同月より減少しておりますが、ADRのアップに成功しておりRevPARについては、前年同月と比較して好調な月でした。

一方で、宿泊者によるレストランの利用率（摂食率）が低下し、料飲部門の売上げが減少し、宿泊部門の売上増を相殺するかたちになっております。沖縄の入域観光客数は引き続き増加しており、同時にリピーターの割合も高くなってきております。当ホテルにおいてもリピーターが増加しておりますが、リピーターになればなる程、ホテル外で食事を摂る傾向があり、今後は更に魅力あるレストラン&メニューを用意していく必要があると考えております。

注1) 上記のコメントは運用会社が賃借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご留意ください。

注2) 各月の数字については監査等の手続を経ないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合もあります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。

注3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。

注4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。

注5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

以上

* 本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>